令和2年版

消防年報



平戸市消防本部

はじめに

近年、少子高齢化に伴う人口減少が進む中、地域住民の行政に対するニーズも複雑多様化してきております。

こうした社会情勢の中、安全で安心して暮らすことができる地域社会づくりをめざし、1本部1署4出張所、職員数79名で、消防防災行政を担っております。

このような中、市民の消防行政に対する期待と信頼に的確に応えるため、 救急救命士の養成、医療機関との連携、応急手当の普及活動の強化、救助 業務の充実、消防防災施設の整備、及び火災予防の啓発に努めてまいりま す。

この年報は、平戸市消防本部における消防の現勢及び令和元年(平成 31年)中の消防業務全般について収録し、今後の消防行政に資するとと もに消防事情を紹介するため編集したものです。

なお、この編集資料は暦年で、予算関係が伴うものについては会計年 度で収録し、必要に応じて収録期日を明示しています。

令和2年9月

平戸市消防本部

目 次

市勢	
位置図	1
消防沿革の概要	2 ~ 7
消防機構	8
本部・署・出張所の所在地	9
現有消防力	9 ~ 11
歴代消防長	12
歴代消防署長	12
総務	
事務分担表	13
消防予算の概要(歳出)	14
階級別職員配置状況	15
職員の研修状況	15
階級別•年齡別職員数調	16
階級別免許取得状況	17
常備消防車両配置状況	18
予防	
防火対象物現況表	19
中高層建築物等(3階以上)の現況表	20
建築同意事務処理状況	20
防火対象物定期点検·特例認定現況表 ····································	20
消防用設備等設置状況	21
火災予防指導実施状況	22
各種届出事務処理状況	22
修学旅行に伴う宿泊施設の照会件数	23
修学旅行受入の年次別推移(過去5年間) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
防火クラブの状況	24
平戸市の住宅用火災警報器設置率	25
危険物施設及び立入検査状況	26
危険物施設構成比	26
規模別危険物施設数	27
規模別危険物施設構成比	27
危険物関係各種事務処理状況	28
危険物手数料収入額調	28

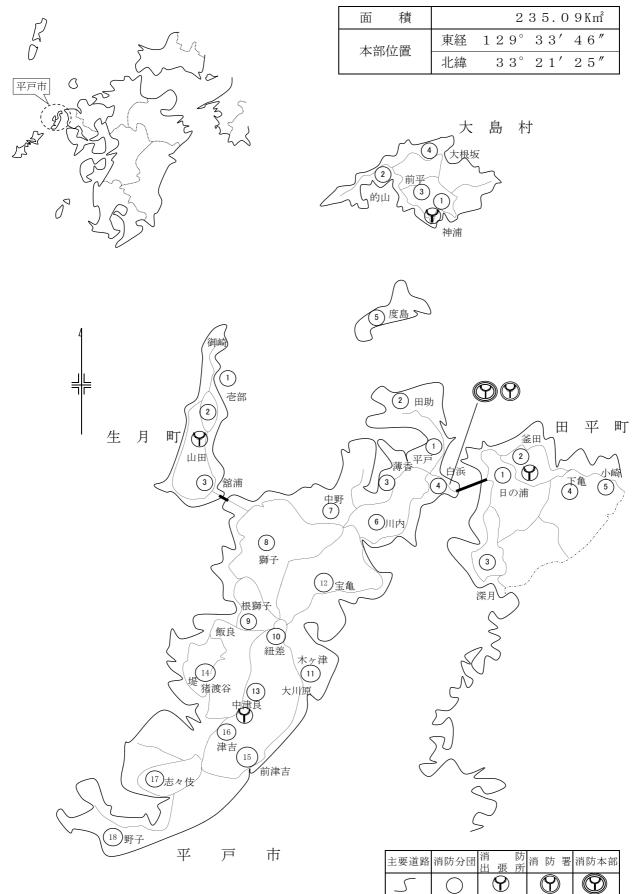
警防

車両配置・通信指令	
消防車両等配置状況	29
消防通信	30
火災出場指令連絡表	31
火災	
火災の概要	32
火災種別·損害額年次比較表	33
署所別火災発生状況表	34
火災種別発生状況	35
月別火災発生状況	36
時間帯別・管内別発生件数及び損害額	37
火災覚知別件数	37
出火原因別火災発生件数	38
火災発生件数 (5ヶ年間)	39
署所別火災発生件数(5ヶ年間)	36
曜日別火災発生件数(5ヶ年間)	40
年間損害額(5ヶ年間)	40
消防隊活動状況	41
火災出場に係る各所要時間一覧(5ヶ年間)	42
救急・救助	
救急・救助の概要	43
署所別出場状況	44
管内事故種別出場状況	44
覚知別出場状況	45
傷病程度別搬送状況	45
住所別搬送状況	45
年別救急出場の推移(5ヶ年間)	46
月別出場・搬送状況	47
曜日別出場・搬送状況	47
時間別出場状況	48
事故種別 • 年齢区分別搬送状況	48
医療機関別搬送状況	49
新生児·乳幼児医療機関別搬送状況 ······	49
救急隊員の行った応急処置状況	50
救急隊員の行った救命処置及び特定行為処置状況	50
除細動器(AED)実績	50
大島・度島の救急件数・搬送人員	51
ドクターへリ要請別出場・搬送状況	51

転院搬送状況	51
住民に対する応急手当普及啓発活動の実施状況(過去5年	間) 52
修了証(普通・上級救命講習)交付状況(過去5年間) …	····· 52
救助出場状況	53
救助出場車両状況	53
救助器具保有状況	54
消防団	
何め回 - 消防団本部所在地	55
	98
20 13 1141/3/2	9.9
消防団員数の推移	9.9
消防団人員・車両配置表	56
消防団編成表	····· 57
消防団員年齢別及び階級別団員数	58
消防団員在職年数状況	58
消防団員の報酬及び費用弁償	59
消防団員退職報償金支給額表	59
消防団員火災出場状況	60
消防団協力事業所	60
消防団サポート事業所	60
消防格納庫建築状況	····· 61~62

位 置 図

令和2年4月1日現在



消防浴革の概要

年 月	事項
明治10年 4月	平戸に私設消防組が柄長組として発足
明治20年 4月	火消組と改名される。
明治27年 8月	私設平戸町消防組発足
明治44年 6月	私設平戸村田助浦消防組発足
大正 8年(推)	私設上下中津良、私設猪渡谷、私設堤消防組発足
大正 9年 4月	私設平戸村薄香浦消防組発足
7月	私設宝亀、私設木ヶ津消防組発足
大正10年 2月	私設津吉、私設古田消防組発足
大正11年 5月	私設紐差消防組発足
大正14年 7月	私設川内浦消防組発足
(推)	私設度島消防組発足
昭和 2年 1月	私設平戸町白浜消防組発足
不詳	私設獅子、私設根獅子、私設志々伎岡消防組発足
昭和 5年 1月	公設中野村消防組発足
6月	公設紐差村消防組発足
昭和 7年 6月	公設平戸町消防組発足
(推)	公設津吉村、公設志々伎村、公設中津良村消防組発足
昭和 9年 5月	公設獅子村消防組発足
昭和14年 4月 昭和22年10月	上記各消防組は警防団令施行により各警防団となり防空の任務が加わる。 勅令消防団施行により警防団を解団し各消防団となる。
昭和23年10月	初市何的回施11により貴的回を解回し各何的回となる。 消防組織法の施行により、勅令消防団を廃止
昭和23年 3月 昭和30年 1月	1町6ヶ村合併平戸市となる。
	市制施行により各消防団の町村名を除き平戸市を冠称する。
昭和31年 8月	平戸市消防団発足
昭和38年 1月	平戸市消防団 1 団 28 ヶ分団 1,134 名となる。
昭和46年 4月	平戸市消防本部、消防署設置
	初代消防長 橋口善治 就任(署長兼務)
	消防職員 30 名採用
	救急車1台日本自動車工業会より寄贈を受ける。
6月	分団統合により 19 ヶ分団 755 名となる。
昭和47年 2月	消防本部、消防署庁舎落成、移転(戸石川町)
3月	消防大学校上幹2 1名入校
4月	消防長兼消防署長 下川 勇 就任
	消防通信一斉指令台設置
	無線電話設置
昭和48年 4月	ヘリポート新設(南部 辻町)
昭和49年 3月	生月出張所設置のため生月消防事務委託について市議会議決
4月	救急車1台 日本船舶振興会より寄贈を受ける。
昭和50年 3月	ヘリポート新設 (度島町)
4月	消防職員 10 名採用
	平戸市消防署生月出張所開所
昭和50年 6月	消防長事務取扱 平戸市助役 酒井勝一 就任
昭和51年 9月	屈折はしご付消防ポンプ自動車、工具車、広報車へ無線電話設置
10月	消防長 三輪宇三郎 就任(署長兼務)
昭和53年 3月	木引田町味のタウン建物大火災9棟全焼
6月	豪雨により大久保町地すべり災害発生(死者4名)
昭和54年 1月	消防大学校救急科 1名入校

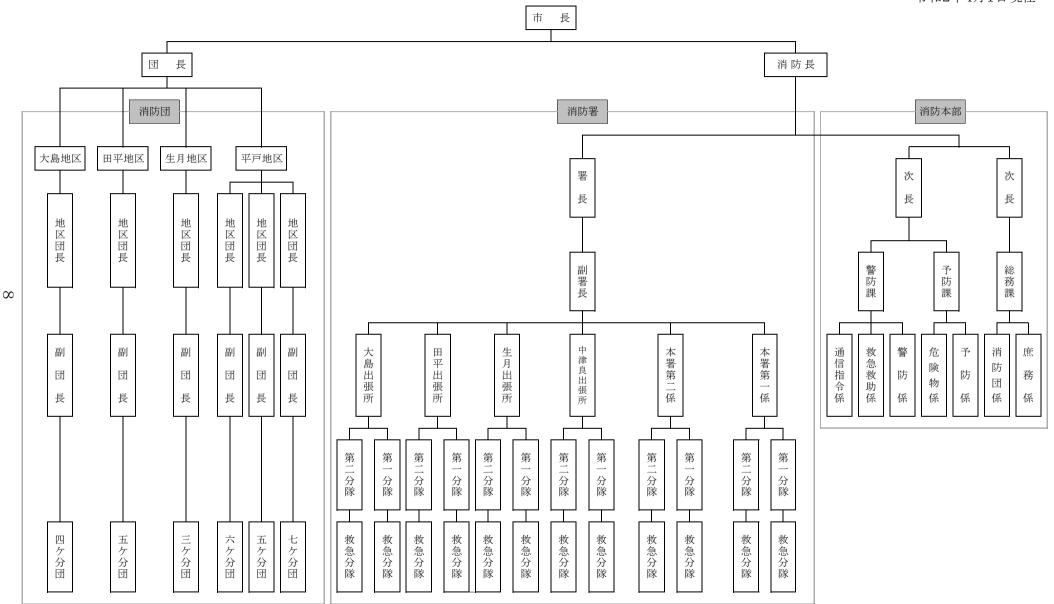
年 月	
昭和55年 1月	消防大学校救急科 1名入校
4月	消防長兼消防署長 西山忠義 就任
5月	消防職員 1名採用
6月	分団編成替えにより 21 ヶ分団とする。
昭和56年10月	救急車 1台日本消防協会より寄贈を受ける。
	車庫増設(庁舎横)
昭和57年 4月	県下消防職員意見発表会(平戸市開催)
7月	九州地区消防救助技術指導会 2名出場(長崎市)
10月	消防団員の定員条例改正に伴い670人となる。
11月	小型動力ポンプ 1台日本損害保険協会より寄贈を受ける。
昭和58年 2月	八市正副団長会開催(平戸市開催)
4月	消防職員 1名採用
6月	消防職員 1名採用
9月	長崎県消防ポンプ操法大会 第 16 分団出場
0 / 1	消防職員 1名採用
11月	消防相互応援協定訓練実施(平戸市開催)
昭和59年 4月	消防長事務取扱者 岩崎久幸 就任
MATERIA 0 1 171	消防職員 12 名採用
5月	県消防長会警防担当課長会(平戸市開催)
9月	平戸市消防署中津良出張所庁舎落成
10月	平戸市消防署中津良出張所開所
11月	無線電話機(固定、移動)各1台購入
1 1/1	防火広報車 1台日本防火協会より寄贈を受ける。
	消防大学校上級幹部科 1名入校
昭和60年 6月	救急車 1台日本損害保険協会より寄贈を受ける。
10月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(大分市)
11月	消防長 山西琢磨 就任(署長兼務)
昭和61年 7月	第 39 回長崎県消防団大会(平戸市開催)
H 1111 - 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎県消防長会予防事務研修会(平戸市開催)
8月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(熊本市)
- / •	長崎県消防長会予防担当課長会議(平戸市開催)
11月	救急指令装置 I 型設置(本署通信室)
昭和62年 2月	救急車 1台日本自動車工業会より寄贈を受ける。(生月出張所)
	長崎県下消防吏員統一昇任試験(司令補・士長)
4月	消防職員 2名採用
7月	九州地区消防救助技術指導会 5名出場(佐賀市)
	救急車 1台 日本消防協会より寄贈を受ける。
昭和63年 3月	本署訓練主塔(17m)新設・空気充填所新設
4月	消防長兼署長 阿部善次 就任
- / 1	救急業務応援協定締結
5月	消防大学校上級幹部科 1名入校
7月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(鹿児島市)
8月	長崎県下署長会議(平戸市開催)
9月	集団事故想定訓練(中部地区)
11月	本署訓練補助塔 (7 m) 新設
12月	第1回平戸市婦人・幼年防火の集い(文化センター)
平成 元年 3月	消防無線通信施設整備工事(屏風岳中継局新設、本署更新、上床更新)
5月	長崎県消防長会総務担当課長会議(平戸市開催)
7月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(長崎市)

年	月	事項
平成	元年 8月	査察車1台日本消防協会共済事業により寄贈を受ける。
		消防大学校予防科 1名入校
	9月	集団事故想定訓練(南部地区)
		消防ラッパ隊発足
	11月	長崎県婦人、幼少年防火の集い(文化センター)
平成		
1 /3/2	4月	消防職員 1名採用
	1/1	消防本部事務室改装
	5月	消防大学校警防科 1名入校
	6月	消防音楽隊発足
	7月	消防監 1名昇任
	9月	集団事故想定訓練(北部地区)
	373	八市正副団長会(平戸市開催)
	10月	九州地区消防駅伝大会 8名出場(熊本市)
	107	消防大学校救急科 1名入校
平成	3年 4月	長崎県下春季消防長会総会(平戸市開催)
十八人	3十 4月	消防大学校警防科 1名入校
	6 月	平戸市総合防災訓練(岩の上町白浜埋立地)
	7月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(北九州市)
	9月	ル州地区相関級助政州相等会 3名山場 (北九州川) はしご付消防ポンプ自動車購入(本署)
	ЭД	消防大学校予防科 1名入校
		集団事故想定訓練(生月町)
	10月	
	11月	年戸市捐助本部創立 20 周午八典 (千戸文化 ピングー) 第1回自衛消防隊初期消火操法大会
平成		第 1 回日開刊的時初期刊入保伝入云 消防長兼署長 鴨川健次郎 就任
十八人	4十 4月	消防職員 1名採用
	5月	消防大学校上級幹部科 1名入校
	7月	程度の大学校工板幹部件 1 石八校 緊急通報システム開通
	7 /7	れが出ているのでは、れが出ているのでは、れが出ているのでは、れが出ているのでは、れが出ているのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればいるのでは、ればい
	9月	ル州地区何め秋めな州相等云 0名山場(八百川) 軽可搬消防ポンプ 3台配置(日本消防協会より寄贈)
	9 73	集団事故想定訓練(中部地区)
	11月	来回事以忘足訓練(中部地区) 九州地区消防職員駅伝大会 出場
平成		
十八人	7月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(大分市)
	9月	集団事故想定訓練(南部地区)
	10月	集団争政忠定訓練(曽部地区) 消防大学校予防科 1名入校
	11月	九州地区消防職員駅伝大会 出場
平成		为州地区间的城县派伍人云 山場 消防職員 2名採用
十八人	0 年 4 月	用的喊員 2名採用 消防大学校救助科 1名入校
	E 13	
	5月	第47回長崎県消防団大会(平戸市開催)
	7月	九州地区消防救助技術指導大会 6名出場(沖縄市)
	9月	集団事故想定訓練(北部地区)
₩ ++	11月	長崎県消防長会、警防担当課長会議(平戸市開催)
平成	· ·	消防長 小西謙特 就任
	7月	九州地区消防技術指導大会 4名出場(佐賀市) 平戸市総合防災訓練(志々伎町港湾埋立地)
	8月	
ਜ; ਜ;	11月	長崎婦人、幼少年防火の集い(文化センター)
平成	8年 8月	救急車1台 日本消防協会より寄贈を受ける。 消防大学校子院科 1タス校
平成	9年 1月	消防大学校予防科 1名入校

年 月	事項
平成 9年 3月	消防団緊急伝達システム運用開始
4月	消防長 濵田晴夫 就任
7月	九州地区消防救助技術指導会 1名出場(佐世保市)
9月	平戸市総合防災訓練(川内町港湾埋立地)
平成10年 4月	消防職員 2名採用
平成11年 1月	消防大学校幹部科 1名入校
4月	消防長前田初次就任
1/1	消防団員定数 670 名を 640 名に条例改正
10月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(福岡市)
1 2 月	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
平成12年 4月	消防職員 3名採用
一一八八八十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
5月	
10月	平戸市総合防災訓練(旧根獅子小学校跡地)
平成13年 1月	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市) ※以口号字巻 505 名 た 500 名 に 2 を 12 を 12 に
5月	消防団員定数 625 名を 600 名に条例改正
7月	消防大学校火災調査科 1名入校
100	救急処置用訓練室増設 事務所改修
10月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(沖縄市)
平成14年 2月	平戸市消防本部創立 30 周年式典(平戸文化センター)
3月	消防団緊急伝達システム増設(12ヶ所)
4月	消防長松本聖二就任
_ =	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
7月	消防大学校上級幹部科 1名入校
	平戸市総合防災訓練(大志々伎町垣留地区埋立地)
平成15年 4月	消防本部の機構改革 3係を3課5係とする。
	消防職員 1名採用
	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
平成16年 4月	消防職員 1名採用
6月	
7月	九州地区消防救助技術指導会 4名出場(国分市)
10月	
平成17年 4月	消防長 松尾茂廣 就任
	消防職員 1名採用
7 月	九州地区消防救助技術指導会 4名出場(長崎市)
	全国消防救助技術大会 3名出場(さいたま市)
10月	新平戸市誕生 1市2町1村合併(旧平戸市、生月町、田平町、大島村)
	平戸市消防団 定数 1,079 名 34 ヶ分団
	田平町消防事務委託(松浦地区消防本部)
	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
平成18年 4月	消防職員 9名採用
8月	全国消防救助技術大会 3名出場(札幌市)
平成19年 4月	松浦地区消防組合消防本部から田平出張所が平戸市消防本部へ移管
	(移行者8名)
	警防課に救急救助係を新設し、3課6係とする。
	消防職員 7名採用
8月	全国消防救助技術大会 2名出場(東京都)
9月	消防職員 2名採用
	はしご付消防自動車 1台購入(本署)

年 月	事項
平成19年10月	平戸市消防署大島出張所開所
	女性消防団員 12 名入団(本部付)
	第 18 回全国女性消防操法大会(平戸市女性消防団 7 名出場)
平成20年 4月	消防職員 1名採用
6月	平戸市総合防災訓練(中部市民運動場)
9月	消防職員 3名採用
平成21年 4月	消防職員 3名採用
	平戸市消防団 分団統合により 30 ヶ分団
8月	全国消防救助技術大会 3名出場(横浜市)
9月	消防職員 3名採用
平成22年 4月	長崎県防災航空隊へ1名派遣
	消防職員 3名採用
6月	平戸市総合防災訓練(田平町釜田港)
8月	全国消防救助技術大会 5名出場(京都府)
9月	消防職員 2 名採用
	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
平成23年 3月	東日本大震災発生 M9.0 (3月11日)
3月14日	緊急消防援助隊 派遣 (消火部隊、後方支援部隊 2隊5名)
, ,	・活動場所:長崎県隊として久慈市白前・半崎地区、九戸郡野田村を捜索
	・活動期間:派遣期間11日間うち4日間
4月	消防職員 1名採用
9月	消防職員 2名採用
, ,	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
10月	
平成24年 4月	消防長 中村幸一 就任
	消防職員 3名採用
6月	平戸市総合防災訓練(大島村的山川内 的山外港埋立地)
9月	消防職員 7名採用
	ひらど消防フェスタ 2012 開催
平成25年 4月	救急救命士養成所 1名派遣(東京都)
8月	全国消防救助技術大会 3名出場(広島市)
10月	消防大学校警防科 1名入校
平成26年 4月	長崎県防災航空隊へ1名派遣
6月	平戸市総合防災訓練(大佐志町古田漁港)
11月	- 1111
平成27年 3月	消防本部・消防署新庁舎及び訓練塔完成(岩の上町)
	高機能消防通信指令システム運用開始(離島型 NEC)
	消防・救急デジタル無線運用開始
	(白岳・緑ヶ岡・慈眼岳・早福中継局開設)
	救急業務総合支援システム (ATAS) 運用開始
4月	消防長 松山敏雄 就任
	消防職員 2名採用
	警防課に通信指令係を新設し、3課7係とする。
	機能別消防団員 16 名入団
10月	
平成28年 3月	
4月	
4月14日	平成 28 年熊本地震発生 前震・震度 7 (4月 14日)
	平成28年熊本地震発生 本震・震度7 (4月16日)

年月	事項
平成28年 4月	平成 28 年熊本地震 平戸市・震度 4 (4月 16日)
	・活動場所:長崎県大隊として熊本市・益城町・南阿蘇村を捜索
	・派遣期間:第1次派遣隊(4月14日から4月17日)
	第2次派遣隊 (4月17日から4月20日)
	第3次派遣隊 (4月20日から4月24日)
	第4次派遣隊 (4月24日から4月25日)
8月	消防大学校予防科 1名入校
	全国消防救助技術大会 3名出場(松山市)
10月	ひらど消防フェスタ 2016 開催
平成29年 3月	消防大学校新任教官科 1名入校
4月	消防長 川口智和 就任
	長崎県消防学校へ教官1名派遣
6月	消防大学校火災調査科 1名入校
7月	平戸市総合防災訓練(古江町下中野漁港)
	平成 29 年九州北部豪雨発生 (7月5日)
7月6日	緊急消防援助隊 派遣(消火小隊、後方支援小隊 延べ 14 隊 35 名)
	・活動場所:長崎県大隊として福岡県東峰村、朝倉市を捜索
	・派遣期間:第1次派遣隊(7月6日から7月8日)
	第2次派遣隊(7月8日から7月11日)
	第3次派遣隊 (7月11日から7月14日)
	第4次派遣隊 (7月14日から7月17日)
	第 5 次派遣隊 (7月 17日から7月 20日)
	第6次派遣隊 (7月20日から7月23日)
100	第7次派遣隊 (7月23日から7月25日)
12月	水槽付消防ポンプ自動車(キャフス付)1台 緊援隊補助金にて購入
平成30年 4月	(中津良出張所) 消防職員 2名採用
8月	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
10月	
平成31年 1月	消防大学校上級幹部科 1名入校
1,3% 0 1 1 1)1	広報車(消防団防災学習・災害活動車両)1台 本署へ配置
	(公益財団法人 日本消防協会寄贈)
4月	消防職員 2名採用
令和 元年 6月	平戸市総合防災訓練(生月町生月漁港)
9月	消防職員 1名採用
10月	消防大学校警防科 1名入校
	ひらど消防フェスタ 2019 開催(平戸市福祉健康まつり)
令和 2年 4月	消防長 本山繁治 就任
	長崎県防災航空隊へ1名派遣



本部・署・出張所の所在地

消防庁舎 令和2年4月1日現在

1111527.1			1971		
				面	積
区分	所 在 地	建設年月	構造	建築面積	延べ面積
消防本部・消防署	平戸市岩の上町733番地1 〒 859-5121 Tb. 0950-22-3167 E-mail shobo@city.hirado.lg.jp	平成27年3月	鉄筋コンクリート造 (4階建)	917. 34m²	2019. 40m²
中津良出張所	平戸市下中津良町540番地2 〒 859-5504 Tb 0950-27-1126 E-mail n_shobo@city.hirado.lg.jp	昭和59年9月	鉄筋コンクリート造 (平屋建)	221. 40 m²	221. 40 m²
生月出張所	平戸市生月町山田免2503番地4 〒 859-5704 Tb 0950-53-2580 E-mail i_shobo@city.hirado.lg.jp	昭和50年4月	鉄骨造 (2階建)	121. 00 m²	181. 50 m²
田平出張所	平戸市田平町里免239番地1 〒 859-4807 Tbs 0950-57-0440 E-mail t_shobo@city.hirado.lg.jp	昭和49年3月	鉄筋コンクリート造 (平屋建)	143. 25 m²	143. 25 m²
大島出張所	平戸市大島村前平1838番地1 〒 859-5802 Tb. 0950-55-2040 E-mail o_shobo@city. hirado. lg. jp	平成19年10月	鉄筋コンクリート造 (2階建)	248. 08 m²	301. 63 m²

現 有 消 防 力

令和2年4月1日現在

消	防		<u> </u>	
		基	準	現有
署			1署4所	1署4所
職員			(定数) 78人	79人
水槽付消防ポンプ自動車			4台	4台
消防ポンプ自動車			2台	2台
はしご付消防自動車			1台	1台
救助工作車			1台	1台
救 急 車			6台	6 台 (うち高規格救急自動車5台)
指令車			1台	1台
広 報 車				1台
査 察 車		·		1台
事務連絡車				1台
小型動力ポンプ				2台

※防災航空隊へ1人派遣

車両一覧



水槽付消防ポンプ自動車



水槽付消防ポンプ自動車(キャフス付)



消防ポンプ自動車



救助工作車



はしご付消防自動車



高規格救急自動車



指令車



広報車



査察車



事務連絡車

歴代消防長

代 別	氏	名	在 職	期	間	備	考
初代	橋口	善治	自昭和46年4月1日	至昭和47年	年3月31日		
2 代	下川	勇	自昭和47年4月1日	至昭和50年	年5月31日		
3 代	酒井	勝一	自昭和50年6月1日	至昭和51年	年10月6日	事務取扱	(市助役)
4 代	三輪	宇三郎	自昭和51年10月8日	至昭和55年	年3月31日		
5 代	西山	忠 義	自昭和55年4月1日	至昭和59年	年3月31日		
6 代	岩崎	久 幸	自昭和59年4月1日	至昭和60年	年10月31日	事務取扱	(市助役)
7 代	山西	琢 磨	自昭和60年11月1日	至昭和63年	年3月31日		
8 代	阿部	善次	自昭和63年4月1日	至平成4年	年3月31日		
9 代	鴨川	健次郎	自平成4年4月1日	至平成7年	年3月31日		
10 代	小西	謙持	自平成7年4月1日	至平成9年	年3月31日		
11 代	濵 田	晴 夫	自平成9年4月1日	至平成11年	年3月31日		
12 代	前田	初次	自平成11年4月1日	至平成14年	年3月31日		
13 代	松本	聖二	自平成14年4月1日	至平成17年	年3月31日		
14 代	松尾	茂 廣	自平成17年4月1日	至平成24年	年3月31日		
15 代	中村	幸一	自平成24年4月1日	至平成27年	年3月31日		
16 代	松山	敏雄	自平成27年4月1日	至平成29年	年3月31日		
17 代	川口	智和	自平成29年4月1日	至令和2年	年3月31日		
18 代	本山	繁治	自令和2年4月1日	i			

歴代消防署長

代 別	氏 名	在 職 期 間 備 考
初代	橋口 善治	自昭和46年4月1日 至昭和47年3月31日
2 代	下川 勇	自昭和47年4月1日 至昭和50年6月1日
3 代	三輪 宇三郎	自昭和50年6月3日 至昭和55年3月31日
4 代	西山 忠義	自昭和55年4月1日 至昭和59年3月31日
5 代	山西 琢磨	自昭和59年4月1日 至昭和63年3月31日
6 代	阿部 善次	自昭和63年4月1日 至平成4年3月31日
7 代	鴨川 健次郎	自平成4年4月1日 至平成7年3月31日
8 代	山口 和夫	自平成7年4月1日 至平成12年3月31日
9 代	大石 嗣男	自平成12年4月1日 至平成16年3月31日
10 代	前田 繁	自平成16年4月1日 至平成18年3月31日
11 代	谷田 美幸	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日
12 代	高本 健治	自平成18年10月1日 至平成20年3月31日
13 代	神田 篤政	自平成20年4月1日 至平成24年3月31日
14 代	川村茂実	自平成24年4月1日 至平成26年3月31日
15 代	川口 智和	自平成26年4月1日 至平成28年3月31日
16 代	本山 繁治	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
17 代	篠田 修一	自平成29年4月1日 至令和2年3月31日
18 代	大石 宇一	自令和2年4月1日